

## 鶴岡市総合計画審議会 第1回社会基盤専門委員会（会議概要）

- 日 時 平成30年3月19日(月) 午後3時から
- 会 場 第三学区コミュニティセンター 大ホール
- 委員発言の概要

### 労働力の確保

- ・出羽商工会では、この春から外国人労働者の受入を始める。人口は増えていかないのに、外国人労働者の受入を真剣に考えてはどうか。市としても、真剣に考える時期にきている。
- ・海外から研修や労働者を受け入れるとすると、生活環境などの面で問題が出てくる可能性がある。外国人向けの生活基盤を充実させていかなければならない。
- ・市の生産人口は、2040年には今の半分になる。今の半分で、企業を支えていかなければならない。鶴岡で働く若い人を首都圏などからどのように連れてくるかが課題。首都圏等の若者にPRして、どのくらい効果があるか。PRがあまりされていないと思うので、やることで現状が見えてくると思う。
- ・かつては、地元就職希望も多かったが、最近は、仕事があっても県外に行く若者が多い。建設業界は人手が足りないのに、私の会社では一般の高校生の採用も募集している。業界として魅力がないのかもしれない。

### 交流人口の拡大

- ・交流人口を増やすことが大切で、そのためには、交通の便をきちんとすることが大切だ。また、国内の交通運賃も高くなっている。飛行機の運賃をもっと安くできないか、別の航空会社を誘致できないものか。
- ・他の自治体では、「川」を活用した取組もある。川のまわりを周遊できるようなシステムや、歩いて巡る観光をもっとあってもいい。内川をもっと活用すべき。
- ・食文化や日本遺産は、今がチャンス。インバウンドの誘致をもっと具体的に計画を持って進めていかなければならない。行政がバックアップし、役割分担しながら、市と民間が一緒に進めていくべき。
- ・交流人口の拡大で経済をまわそうとしているが、総合的な観光を担っているところできていない。日本遺産もあるが、つながっていない。
- ・インバウンド向けの観光マップを作った時のことだが、湯殿山へのバスが羽黒山からしか出ていなかったり、即身仏を見にバスで行っても帰りはタクシーで帰らなければならなかったり、観光向けの交通網があまり整備されていなかった。生活交通だけでなく、観光向けの交通網をしっかりと考えていくべき。

### 移住促進

- ・都市と鶴岡をどのような方法でつなげるかが課題で、鶴岡ファンを作らないといけない。都市でのPRだけでなく、今までとは違った方法が必要。秋田県のシェアビレッジ（ゲストハウス）は、参考になる。会員となって年会費を払い、体験などの活動を行うもので、全国から会員が集まっている。
- ・自分は、大学で過ごしたことが、移住のきっかけとなっている。大学と移住者とのつながりは、関連があるので、学生をターゲットにすることも大切。
- ・移住の条件は、魅力的な仕事があることだと思う。湯布院は、地元でない人が多く働いている。まちの魅力もある。ここで働く幸せになれるということが、移住につながると思う。

### 定住促進

- ・仙台では、若い社会人の地元で働きたいニーズが高まっている。地元の子どもたちが、地元のために何かしたい、地元で働きたい、ベンチャーを起こしたい、家族と一緒に暮らしたいと思えるように、大人がそういう姿勢を見せないといけない。

### 不動産の管理

- ・高齢者が孤独死し相続人もいないとか、所有者不明の土地が増えているとか、10年前まではなかったことが出てきている。これからもっと宙ぶらりんの不動産は増える。

### インフラ整備

- ・道路や建物は整備すれば便利になるが、管理コストは高くなる。人口減少や人口流出が進む中で、誰が負担していくのか。住みやすくする必要はあるが、負の遺産を残すわけにもいかない。人口減少が進む中で、観光、農業、雇用も考慮して、建物や道路のことをきちんと考えていかないと、10年後悲惨なことになる。

### 公共交通

- ・バスに替わる交通手段も出てくる可能性がある。20年後のことを考えていかなければならない。

### まちづくり

- ・東京や都市を羨んでもしょうがない。市民、行政がモチベーションを上げて、意欲を持ってまちづくりをしないとイケない。
- ・少子高齢化や人口減少の中で、心の豊かさや、子どもたちが地域のことを理解できる環境が大切になってくる。

### 商工業の技術の継承

- ・個人事業主が毎年廃業している。技術が継承されなくなることが心配される。